

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：23903

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K18861

研究課題名(和文)精神科看護師のDark Triad傾向が倫理的行動に及ぼす影響

研究課題名(英文)The Influence of Dark Triad Tendency on Ethical Behavior in Psychiatric Nurses

研究代表者

今泉 源 (Imaizumi, Gen)

名古屋市立大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：80833855

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 300,000円

研究成果の概要(和文)：全国の精神科病院14施設に所属する949名の看護職者を対象に質問紙調査を行い、組織風土尺度の下位因子である「柔軟性・創造性・大局的」、「自由闊達・開放的」、「権威主義・責任回避」、協同作業認識尺度の下位因子である「個人志向因子」、「協同効用因子」が倫理的風土に影響を及ぼす要因であることを明らかにした。

この結果から、組織における倫理的風土を向上させるためには、権威が弱いと考えられる看護者を含めたすべての看護者の倫理的な感性を対等に扱い、個々の道徳的感受性や倫理観が看護実践に反映させられるような風土を作ることが必要であると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は歴史的に繰り返されている精神科病院での医療者による非倫理的行動の原因を明らかにすることである。精神科看護師の非倫理的行動については個人要因(看護師自身のパーソナリティや心理状況など)に着目した研究が盛んに行われているが、多様な見解や結果の非一貫性が見られ問題の提起に留まっているのが現状である。

一方、本研究ではそうした非倫理的行動の原因を環境要因に求めることで包括的な介入へ繋げやすいアウトカムを得ることができた。本研究で得られたより、看護師個々の個人要因に依存しない形での精神科病院における非倫理的行動の予防・改善につながる可能性がある。

研究成果の概要(英文)：A questionnaire survey of 949 nursing professionals in 14 psychiatric hospitals in Japan was conducted, and the following factors were found to influence ethical climate: "flexibility, creativity, and big picture," "free and open-minded," and "authoritarianism and avoidance of responsibility," which are sub-factors of the organizational climate scale; "individual orientation factor" and "cooperative utility factor," which are sub-factors of the collaborative work recognition scale. The results of this study revealed that the following factors influence ethical climate in organizations.

These results suggest that in order to improve the ethical climate in organizations, it is necessary to treat the ethical sensitivities of all nurses, including those who are considered to have weak authority, on an equal footing, and to create a climate in which individual moral sensitivity and ethical views are reflected in nursing practice.

研究分野：精神看護

キーワード：精神科 倫理的行動 道徳的感性 倫理的悩み 倫理的風土 看護師 精神科看護師

1. 研究開始当初の背景

わが国の精神科病院では、歴史的に様々な非倫理的な事件が発生している。その中には看護師の患者に対する暴力や、非人道的な扱い等の事例も含まれている。そうした事件の背景には、日本の精神科病院は民間病院が中心であることや医師、看護師、薬剤師の必要数が少なく設定されている点、また、国民の精神障害者に対する根強い偏見、精神科病院の産業化、精神科看護の専門性の確立の困難さ、自己決定できにくい患者などがあるのではないかとされている(藤野、2003)。このように、日本の社会・文化、精神科の労働環境、精神疾患患者の看護をするという行為などに非倫理的な事件の要因があるのではないかとする視点は以前から存在する。しかし、そうした指摘があり、様々な事件により病院の危機管理意識、看護師の倫理的緊張感が高まっているにもかかわらず非倫理的な事件はなくなることなく繰り返されている。

看護師の非倫理的行動の原因は「環境要因」、「対象要因」に加え「個人要因」を含めた3つに分けられる。環境要因では、精神科病棟の人員配置の少なさや閉鎖的な環境、患者の問題行為が許される環境などが、対象要因では患者の迷惑行為、繰り返される裏切り行為などが挙げられる。個人要因では、環境要因や対象要因から抱く心理的な要因が含まれ、加えてその看護師自身の性格、人格などのパーソナリティも関係する。精神科で勤務する看護師は患者に対し陰性感情やスティグマ等を抱き、バーンアウトなどの精神的変調をきたす可能性があることが先行研究で明らかになっている。申請者はこれまで、精神科看護師として精神疾患を持つ患者と関わる中で生まれる心理的な要因と倫理的行動の関連について研究しており、精神科看護師の倫理的行動は陰性感情やスティグマがあることで低下し、完全主義的な傾向があることで強化されることを明らかにしている。これらの心理的な要因は精神科病院という環境で勤務する中で少しずつ蓄積されていく感情や価値観の変化に起因すると考えることができる。

しかし、心理的な要因のみに着目していると看護師の根本的なパーソナリティによる非倫理的な行動に対するリスクを抽出することができない。先行研究において性別、経験年数等による倫理的行動に対する影響を論じた文献は散見するが、看護師のパーソナリティに注目し精神疾患を持つ患者との関わりにどう影響するかを論じた研究は見られない。そこで、本研究では、精神科看護師のパーソナリティが患者に対する倫理的行動にどのような影響を及ぼすのかを Dark Triad に着目し考察する。

Dark Triad はマキャベリアニズム、ナルシシズム、サイコパシーの総称であり、社会的に重要な影響をもたらす要因であるとされている。これまで、精神科看護師の倫理的行動に影響を及ぼす要因は陰性感情やスティグマといった患者-看護師関係の中で生まれる心理的な要因が着目されていたが、看護師の根本的な性格、人格といった要素と倫理的行動との関係は明らかになっていない。本研究では Dark Triad と精神科看護師の倫理的行動の関係を明らかにすることにより、精神科における看護師の患者に対する非倫理的行動を防止する施策を提言するための基盤知見とすることを目的とする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、歴史的に繰り返されている精神科病院での医療者による非倫理的行動の原因を明らかにし、有効な介入方法への示唆を得ることである。

3. 研究の方法

精神科病院で勤務する看護者を対象とした、無記名自記式質問紙を用いた横断研究を行う。

日本精神科病院協会に加盟している精神科病床を 100 床以上持つ病院から 200 施設をランダム抽出した。また、機縁法により研究協力依頼の可能な施設を加えて研究対象施設とした。研究対象施設に勤務している看護職者を研究対象者とし適格基準とし、「現在、精神科病棟で勤務している看護職者(看護師、准看護師)」、「精神科病棟における1年以上の勤務経験を有する者」を設定した。質問紙は研究者から看護部責任者へ郵送し、看護部責任者より病棟長へ配布し、病棟長から研究対象者へ配布した。質問紙の回収は返信用封筒を用いた郵送法、もしくは Momentive Inc の提供するアンケートサイト「Survey Monkey」を用いた Web 回答のいずれかを回答者が選択し行った。

4. 研究成果

令和 2 年度時点の研究計画では、非倫理的行動を引き起こす可能性のあるパーソナリティとして Dark Triad に着目し、倫理的行動との関連を明らかにすることを目指していた。しかし、研究を進めていくにあたり、看護師の倫理や道徳に関する研究は倫理的行動、道徳的感性、倫理的悩み、倫理的風土など様々な視点から尺度作成や調査が実施されており、多様な見解や結果の非一貫性が見られることが明らかになった。

そこで、本研究では「精神科看護師の倫理的行動」を構造化して理解するために、先行研究で多角的な解釈がなされている「精神科看護師の倫理・道徳」を俯瞰し研究課題の抽出から始める必要があると考え、国内外の精神科看護師を対象とした倫理や道徳に関する文献を再検討し、研

究計画の修正や質問紙の作成、研究協力施設の探索など研究実施のための準備を行った。

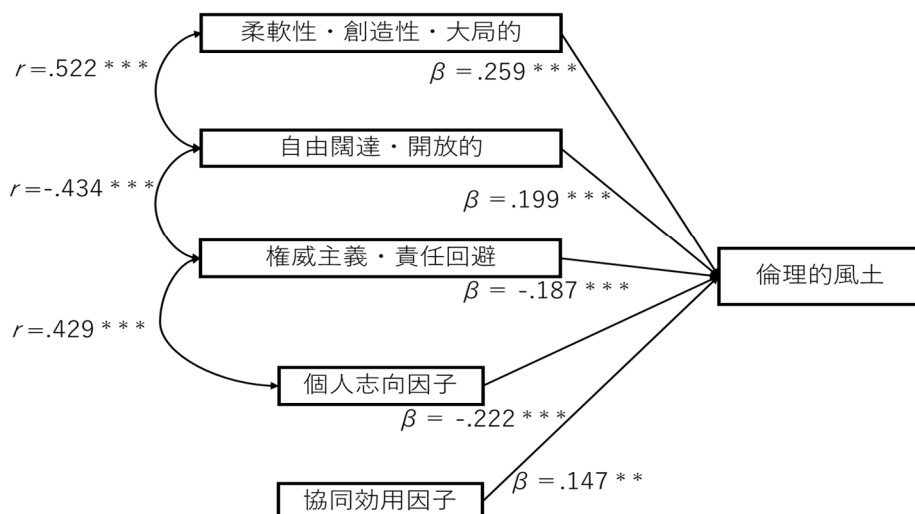
令和 3 年度は精神科看護師を対象とした倫理や道徳に関する文献を検討した結果を「精神科看護師の倫理・道徳の測定に関する文献検討」「精神科看護師の倫理・道徳に関する海外文献の検討」として論文化し発表した。また、文献検討の結果から精神科看護師の倫理・道徳に関する研究の視点として環境要因に対する知見が不足しているという課題が見出されたため、本研究の焦点を精神科病院の倫理的風土とし調査を行うこととした。

令和 4 年度は精神科病院の倫理的風土に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的に、看護師を対象とした質問紙調査を行った。調査項目は看護師の基本属性、日本語版倫理的風土測定尺度、組織風土尺度、協同作業認識尺度、日本語版バーンアウト尺度にて構成し、14 施設 949 名の看護師を対象に調査を行い、319 名を分析対象とした。

結果を図 1 に示す、組織風土尺度の下位因子である「柔軟性・創造性・大局的」、「自由闊達・開放的」、「権威主義・責任回避」、協同作業認識尺度の下位因子である「個人志向因子」、「協同効用因子」が倫理的風土に影響を及ぼす要因であった。これらの結果から、組織における倫理的風土を向上させるためには 権威が弱いと考えられる看護師を含めたすべての看護師の倫理的な感性を対等に扱うこと、看護師個々の道徳的感受性や倫理観が看護実践に反映させられるような風土を作ること、看護師個々が同僚との協同に価値を見出し、それぞれの倫理観を共有すること、が必要であると考えられた。

本研究結果は「精神科病院において看護師が認識する倫理的風土に影響を及ぼす要因」として論文化し発表した。

図1, J-HECSを従属変数とする重回帰分析の結果



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 今泉源 香月富士日	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 精神科看護師の倫理・道徳の測定に関する文献検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 なごや看護学会誌	6. 最初と最後の頁 2-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 今泉源 香月富士日	4. 巻 5(2)
2. 論文標題 精神科看護師の倫理・道徳に関する海外文献の検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 なごや看護学会誌	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 今泉源 香月富士日	4. 巻 -
2. 論文標題 精神科病院において看護師が認識する倫理的風土に影響を及ぼす要因	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本精神保健看護学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	香月 富士日 (Katsuki Fujika) (30361893)	名古屋市立大学・大学院看護学研究科・教授 (23903)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------